

令和7年度 第1回 中能登町立中能登中学校 学校運営協議会 会議録

【日 時】	令和7年5月1日（木）14：40～15：40
【会 場】	中能登町立中能登中学校 2F 会議室
【出席者】	大西 保、岡下 哲也、木村 実貴絵、古玉 路子、鳥木 教文、藤田 典知 水谷内 良郎 学校長（50音順） 学校代表者：竹下 慶 教頭
【事務局】	学校教育課：山森担当課長、横山主事 生涯学習課：寺西主査、中瀬主査、山口
【次回予定】	未定

【進行】学校教育課：山森担当課長、中能登中学校：竹下教頭

1. 会長、副会長の承認

※委員互選により、会長：大西 保さん、副会長：岡下 哲也さんに決定。

2. 令和7年度学校経営計画について ～水谷内学校長より、資料を基に説明～

【質疑応答】

- 「安心」・「連携」・「意欲」という目標について、非常に重要なテーマだと感じているが、その中でも、「意欲」を醸成していくのはとても大事なこと。人間関係が「意欲」を支える土台になっていくという説明があったが、その他の策としては？
⇒中能登しごと館の講話で、職業についてのやりがいや、生の声を聞くことで、人生の意欲に繋がるのではないかと考えている。昨年度、出前授業では田鶴浜高校・羽咋工業高校の先生から、総合学習授業では役場の職員から、話を聞く機会があったが、こういったものを取り入れながら、生徒の「意欲」へ繋げていきたい。
⇒地域の方や様々な方から刺激を受けて、学びに繋げていきたいということなので、是非我々も協力していきたい。
- CSを活用して、社会に開かれた学校にしたいとあるが、具体的な目標の一つが部活動地域展開を完全実施するということだが、どのような状況か？
⇒文化部については指導者が少ないこともあり、難しい状況だが、運動部については、地域展開ができていく状況。平日の活動についても、できることから進めていきたい。
⇒地域展開は、地域に任せっきりにするというものではないので、地域の指導者と学校の先生方のコミュニケーションを大切にしながら進めてほしい。校長先生の想いも外部指導者に伝えて、理解してもらえればと思う。
- ほっとルーム・通級指導教室について、実態が理解できていない。
⇒ほっとルームに関しては、不登校やしぶり傾向にある生徒が学校に通いやすいよう、今年度から設置された。通級指導教室については、特性がある生徒を対象に、人と関わりながら、一人一人に合った学習ができるよう進めている。外部機関とも連携しながら、子どもたちの学びを豊かにできるようにしていきたい。
⇒以前は特性のある生徒は別の学校に通うことも多かったが、特別支援学級が学校内にあることで、子どもたちの理解にも繋がるのではないか。
- 中学校在学中は不登校だったが、高校には通いたいという子もいる。そういった子が通える学校はあるのか？
⇒七尾市にわかたけ教室（小中学生対象の機関）があるが、高校生は受け入れていない。
⇒あすなる中学校という夜間中学校が金沢で開校。そこでは中学校の学び直しができる。
※学校経営計画について承認。

3. 協議

①中能登しごと館のサポート ～寺西主査より、資料を基に説明～

- 小学校では地元企業の見学などを実施しているが、中学校では実施できないか？
⇒中能登町としても、町内にある企業と連携しながら、子どもたちの学びに繋がったり、地元での就職を考えるきっかけづくりにできないかという話が出ている。小中学校でも検討いただけたらと思う。
⇒ちびっこ駅伝のTシャツ作成の際、地元企業にお願いしたが、早急に対応して下さった。外注せずに、地元で作って地元で購入するなど、需要と供給ではないが、すべてが繋がっていけばいい。
⇒中学校では総合学習などでも良いアイデアがあるので、企業と連携して、チャレンジできれば良い。
⇒小学校でおにぎり饅頭の販売など実施。小中連携というのも面白いのではないか。
⇒企業が運動部のスポンサーになっているところもあるので、少しずつ協力していける体制を作っていければ良い。
⇒わくワーク体験という事業があったが、コロナ禍を経験して、働き方改革もある中で、「復活」というところまで至っていない。課題はあるが、お互いに負担がないよう、連携していけるものを模索していく。

②部活動地域展開 ～中瀬主査より、資料を基に説明～

- 部活動地域展開に関して、土日の学校使用はどうなっていくのか？
⇒体育館の使用については、年度初めに4月～3月までの申請書を提出してもらう。解錠・施錠については、申請があり、利用がある場合は管理人に対応してもらう。
- ソフトボールについて、休日に活動をしていないとのことだが、かつて、とても活発に活動されていたので残念だと感じている。
⇒現在、ソフトボール協会に外部指導者の手配をお願いしている。これまでソフトボール部が使用していた鳥屋グラウンドが、地震の影響で利用できない状況にあったが、野球部が中能登球場で、ソフトボール部が中学校グラウンドを使用することになった。
- 土日にテニスコート「とりや」で熱心に自主練習をする生徒が増える中、テニスウェアを脱いで練習する場面を見かけ、けが予防の観点などからも、テニスウェアを着用するよう促した。教育的意義を残していくためにも、部活動と地域クラブ活動の連携を取っていく必要がある。
- 部活動地域展開について、先生方の負担を軽減していくためにもあると思うが、先生方の負担が減ることで何かしらの変化はあったか？結果をどう計るべきか分からないが、先生方のモチベーションに繋がっているのか？
⇒時間数にすると、明らかに負担は減っている。ここ3年間で大きく変わっている。モチベーションに繋がっている先生が多いのではないかと感じている。基本的に教員は、授業改善が一番大事なところなので、そこに時間を割けるようになってきている。
⇒教職員の働き方改革なども含め、時代の流れなので、部活動地域展開を進めていく方向性で、学校運営協議会として、学校の先生方を応援するというスタンスでいる。

③より良い教育環境・働き方改革に向けた取り組み ～山口より、資料を基に説明～

《学校運営協議会の教職員・生徒との関わりについて》

- 子どもたちの声を聞けるよう、総合学習発表など、町へ向けて発信するような機会に学校運営協議会として参加していく。

5. 閉会あいさつ

《大西会長》

話し合いが進み、納得しながら話を聞いていた。生徒・先生方が少しでも元気になり、中能登中学校がより良い学校になるよう、学校運営協議会がちょっとした支えとなれたらいい。

今年1年間、よろしくお願ひします。本日はありがとうございました。